

令和6年度 保育所における自己評価

園名 佐賀市立川原保育所

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない」ことが明記されています。このことに基づき、佐賀市公立保育所では毎年自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、よりよい教育・保育に向けた、改善や充実に取り組んで参ります。

園目標

(保育理念) 感性豊かで、心も体も健やかな子どもの育成

(保育方針) 子どもの主体性や自発性を大切にした保育を行う
一人一人の特性に応じた保育を行う
人との関わりを大切にした保育を行う

(保育目標)

- 心も体も健やかな子ども
- 人との関わりを喜ぶ子ども
- 伸び伸びと自分を表現する子ども

【評価結果の表示方法】 ※評価するにあたっては、以下のような基準で行っています。

A：90%以上・・・十分達成されている。

B：70～89%・・・達成されている。

C：50～69%・・・取り組みがされているが、成果が十分ではない。

D：49%以下・・・取り組みが不十分である。

評価項目	ABCD 評価	評価内容
保育方針・保育目標	B	保育方針・保育目標を理解し、かつ課題を共有していた。
子どもの発達援助	B	一人一人の子どもや集団の姿をとらえ、全職員で保育を行った。
保護者との連携	B	懇談や送迎時に保育内容や子どもの様子を伝え、保護者に寄り添った対応や連携を行った。
地域との連携	B	子育て支援機関や医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供した。
運営・管理	B	職員の役割分担と責任を明確にし、能率的かつ迅速な対応ができる体制であった。
職員の資質向上	B	実践的研修に取り組み、日常の保育に生かして子どもの育ちに反映した。
健康・安全	B	園内外の危険箇所の見直しや衛生的な保持に努めた。
食育	B	個別に配慮した食事を提供し、子どもが楽しく食べ、食べる意欲が育つ工夫をした。

総合評価

【保育方針・保育目標】

・園の保育方針や保育目標について、職員間で共通理解を図ることができるように、月1回程度、保育について話し合う場を設けている。保育方針や保育目標に沿った保育に向けて保育計画を立て、日々の活動を行っているが、「子ども理解」や「保育の振り返り」が、より必要であると感じた。また、クラスによっては、保育観の違いやズレを感じたという意見もあったため、定期的な話し合いの場以外でも、必要な時には、保育を語れるような時間を設けたり、園内での雰囲気づくりを行っていききたい。

【子どもの発達援助】

・子どもの主体性や自発性を大切にしたい保育を行うことを意識していく中で、一人一人の発達を見ながら、その子に応じた対応や遊びを楽しめるような援助をしていくことを全体で行っている。また、子どもの特性や発達を理解するために、個別の指導計画や個人の記録を作成している。今後は、保育士の関わりだけでなく、子どもの特性や発達に応じた保育環境づくりが課題である。

【保護者との連携】

・今年度は、保護者との個人面談、クラス懇談会を全クラス行き、家庭との連携を図る。個別に相談がある場合も早急に対応を行った。送迎の際には、できるだけ担任が子どもたちの遊びの様子を話したり、毎日、活動の様子や連絡をホワイトボードに書いて掲示したり、写真で分かりやすく表示し、育ちの姿を伝えるなど、ドキュメンテーションで行う場合もあった。今後も個人懇談やクラス懇談会、フリー参観を行い、園での子どもたちの様子や保育内容について発信していきたい。

【地域との連携】

・校区内の日新小学校の教師との保育参観や意見交換会、日新公民館との行事の交流や護国神社の川遊びを年長児が楽しんだり、信愛整形外科のホールで、年中児が体軸体操を講師の先生から教えていただく体験をしたり、地域との交流を図ることができた。園の評価を日新小学校の校長先生、川原小路の自治会長、校区内の児童民生委員の方にしていただき、評価やアドバイスを園運営に活かすことができている。校区内での子ども同士の交流が少なかったため、幼保こ小連携に取り組んでいきたい。

【運営・管理】

・年度当初に組織としての役割を明確にして、職員間で共通理解を図ることができた。職員の役割分担が明確になることで責任をもって役割を行っていたが、能率的、迅速まではいかなかった。また、園が2階建ての構造であるため、今年度は、2階クラス主任、1階クラス主任、全体的に保育を把握する保育主任と体制をつくり、各主任を軸としたチーム保育を行っていきかけたが、組織として強化することは難しかった。運営的には問題はなかったものの、役割については今後見直していききたい。

【職員の資質向上】

・今年度、全職員が園外研修に3回以上は参加するように研修計画を作成し、計画以上に参加ができた。また、園には外部講師を招き、造形遊び、表現遊び、保育について学ぶことで、職員の資質向上につながっている。園内研修では、テーマを「子どもの言葉や表現の豊かさにつながる保育者の関わりとは」とし、公開保育を行う。公開保育に向けては、保育方針、保育目標の共通理解を図り、保育案の検討、公開保育後の成果や課題を共有することで保育の資質向上につながっている。

【健康・安全】

・保育所におけるアレルギー対応・感染症・事故防止及び発生時のマニュアル・避難訓練・交通安全指導の年間計画を作成し、避難訓練については、毎月の計画を基に訓練の実施を行う。反省点や改善点を職員間で出し合い、次に活かしている。月1回の園舎内、園庭、遊具、園周辺等の安全点検を行う。危険箇所が見つかった場合は、担当課に連絡し、改善を図った。各クラスでは、毎週、安全・衛生チェックを行い、部屋の衛生面、安全面を意識して対応ができた。建物が老朽化しているため、施設内の安全面には日頃から特に気を付けていくようにしたい。

【食育】

・年間の食育計画を作成し、計画を基に実施を行った。年少、年中、年長クラスは、年3回、佐賀市の管理栄養士の先生から、食育に関連することを学ぶ機会を設ける。また、子どもたちが栽培した野菜を収穫後、給食の先生から調理をしてもらって食べることを楽しんだ。年長児クラスは、おやつクッキングを給食の先生の支援のもと3回行った。保護者のおやつ試食会を年長児クラス懇談会の際にすることができた。来年度は、全クラスの保護者の方に給食の試食会を設けたい。

来年度に向けた取り組み

◎職員の保育力を高める

- ・職員同士で保育や子どもの育ちについて話し合うことを定期的に行い、様々な保育の見方や考え方を知る。
- ・子ども主体性や自発性を大切にする保育について学び合う。

◎組織の中の一員としての自覚、互いに支え合う仲間意識と共にチーム保育を目指す

◎保護者や地域との交流を図る

- ・全クラスの個人懇談、クラス懇談会を設け、園の保育への理解や家庭との連携を図る。
- ・地域の学校や公民館、医療機関等との連携を行い、交流の機会を増やして子どもの育ちを支え合う。